

福祉体験学習

教科・領域 総合的な学習の時間

周南市立周陽中学校 3 学年

キャリア教育の観点

この取組は、本校の総合学習のテーマ「いのち・いきる・ともに」で3年間学習してきたまとめとして、福祉に関する体験学習を行うことで、他者の立場や生き方を理解させ、自己の生き方を考えさせる活動です。ねらいは次の3つです。

①他者の立場や生き方を理解することで、自己の生き方を考える。

【自己理解・自己管理能力】

②福祉の現状と課題について理解し、「共に生きる力」「社会に貢献する力」「奉仕の力」を育む。

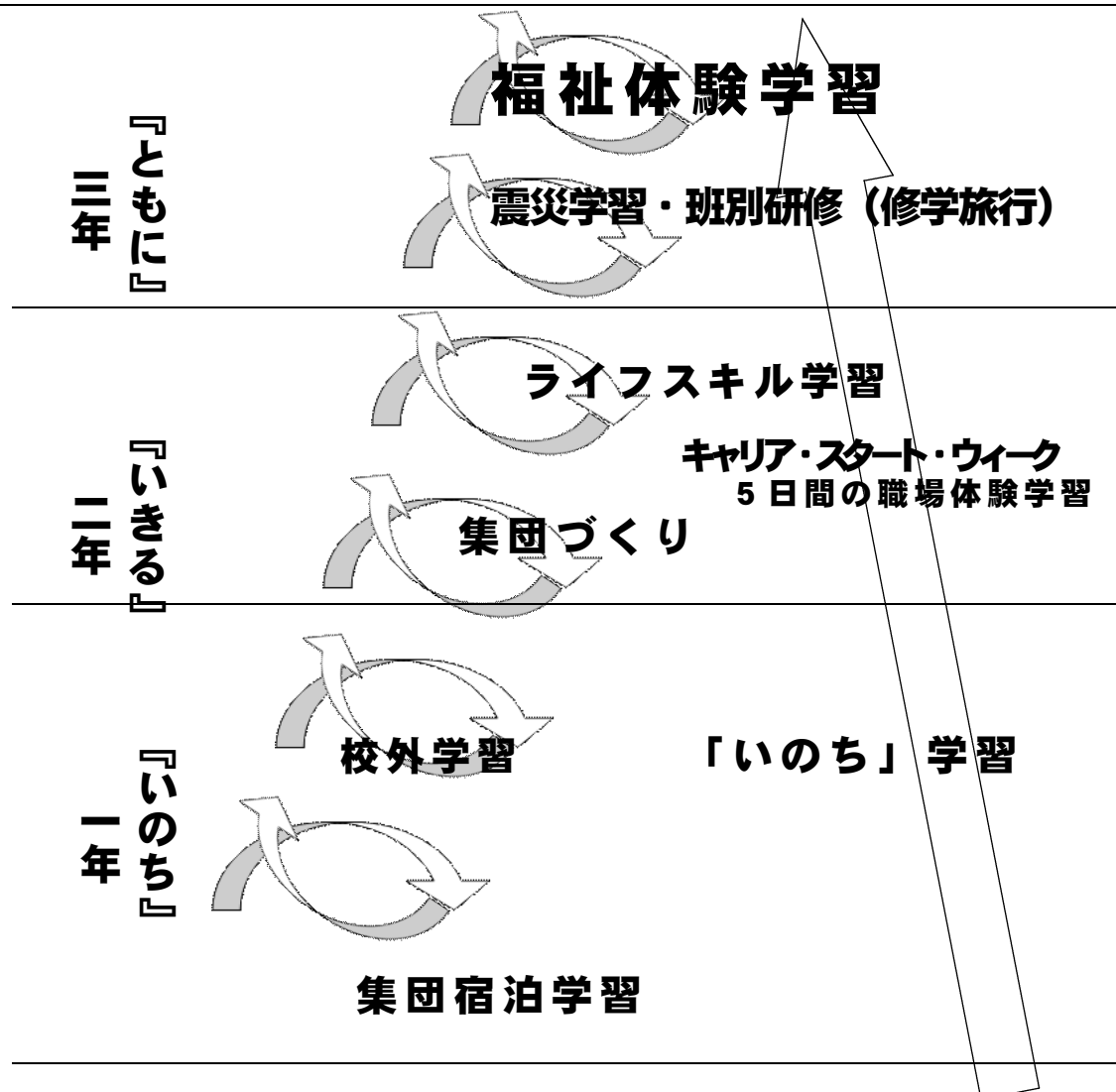
【人間関係形成・社会形成能力】

③学習のまとめを作成することで、「表現する力」を育む。

【課題対応能力】

本校における「総合的な学習の時間」全体図

『いのちを生きる瞬間（とき）』



事前準備

- (1) 他者を知り、自己を見つめる。
 - ① 人権感覚を磨く。……「いのち」を守るために一東日本大震災から考えるー
 - ② グループワークから、いろいろな考え方を認める。
- (2) 福祉の現状と課題について学ぶ。
 - ① 社会保障制度について学ぶ。
 - ② 希望する福祉体験事前学習を受ける。
- (3) 個人テーマに基づき、体験学習を実施する。
 - ① 個人テーマを作成し、事前の調べ学習を行う。
 - ② 体験学習の準備を行う。

事前体験学習

疑似体験を通して、その境遇にある方に自分は何ができるのかを考え、相手の気持ちや立場にたった思いやりのある接し方ができることをねらいとして、福祉体験学習を行った。指導者は、周南市社会福祉協議会の方々と、内容として、高齢者疑似体験、アイマスク、車いす、手話、さらには、児童福祉（保育）に関する講話や演習などをお願いした。当日は、2時間の体験活動を計画し、生徒は、7つの講座から希望する2つの講座で体験学習を受けた。

体験	車いす	高齢者疑似体験	手話体験	アイマスク体験	保育講話&演習(尚白保育園長)	保育講話&演習(城ヶ丘保育園長)	保育講話&演習(徳山大学)
体験 13:35 ～ 14:25 (50分)	高齢者福祉A A ・鼓海園10 ・とーか9 ・こもれび苑5 ・ふくしの里5 29名	高齢者福祉B B ・きずな苑10 ・ひまわり苑4 ・けあぼーと2 ・香雪4 ・デイサービスとんだ3 23名	障害者福祉 C ・白鳩学園12 ・セルフ周陽5 ・周南総合支援学校6 ・鼓澄苑5 28名	高齢者福祉C D ・グループホーム周南10 ・あいデイ秋月3 ・セラヴィ徳山6 ・社協4 23名	児童福祉A E ・榊浜9 ・ぞうさん7 ・和光8 24名	児童福祉B F ・こもれび6 ・城ヶ丘6 ・遠石6 18名	児童福祉C G ・周央7 ・飯島4 ・大内9 20名

【体験先】 高齢者福祉 12事業所
障害者福祉 4事業所
児童福祉 9事業所

福祉体験学習

体験学習当日は、事前に打ち合わせをしていたメニューに沿って、終日体験学習を行った。

高齢者福祉体験では、特別養護老人ホームで、施設から説明を受けた後、レクリエーションを通じて、お年寄りの方々とコミュニケーションをとったり、車いすを押してあげたりなど、事前学習を生かした内容の体験を行うことができた。

また、児童福祉では、絵本の読み聞かせや遊びなどを通して、子どもたちとしっかりふれあうことで、子どもへの関わり方を体験することができた。

生徒は、高齢者や幼児と関わりをも



つことで、相手の立場や気持ちを推し量って対応することの難しさと同時に、コミュニケーションの大切さを感じることができた。

まとめ

福祉体験学習にあたっては、2年生の時に、5日間の職場体験学習で学んだことで、福祉体験に生かせることは何かについて確認した。具体的には、「福祉体験学習へ向けた意気込み」という題で、作文を書かせ、当日、目的をもって学習できるように指導を行った。

体験学習後は、主に2点についてまとめさせた。

- ①体験して気付いたこと、わかったこと、驚いたこと
- ②体験を終えて考えたこと

それらを元に、各自で新聞の形式にまとめ、文化祭で発表した。また、礼状を送るとともにお世話になった方を文化祭にご招待することで感謝の意を表した。



考察・課題

生徒にとっては、3年生最後の総合学習の内容ということで、1年生のときから、全校テーマとして取り組んできた「いのち・いきる・ともに」の集大成としての学習の意義を感じ、自己の生き方につなげることができたようだ。

人間は、一人では生きていけない、お互いに支え合い、助け合いながら、人生を豊かに生きるために、中学校の体験学習が今後の人生に役立ってほしいと願っている。

課題としては、中学校の家庭科に保育実習が、新学習指導要領に必修になったように、重なったり、関連したりする内容については、整理、統合を行うなど、改善・見直しを図っていきたいと考えている。

事後学習

事後学習として、社会福祉協議会から、「認知症サポーター養成講座」について案内があった。そこで、3年生対象に、高齢者の認知症を理解し、接し方について学ぶことで「ともに生きる」ことについて考えることをねらいとして、学習を行った。その学習を行った際の生徒の感想の一部を紹介する。

私が一番驚いたことは、認知症を少しでも遅らせることができるということです。私は、認知症は直したり、遅らせたりということはできないと思っていました。でも、そのためには、私たちの対応がとても大切だということがわかりました。

私にできることは、しっかり実践したいと思います。これまであまり関わったことのない人でも、自分が優しく接することで、その人が治るまで手助けをしてあげたいです。

今日の講話で一番学んだことは、こちらの態度は、確実に相手に伝わるということだ。こちらが、つい攻撃的になってしまうと相手もそうなるだけだと思う。そうではなくて、怒りそうになった時は、席を外すとか、できるだけ一人で抱え込まない工夫をしていくことが大切だと思った。自分よりも相手の方がつらいのだから、そこに配慮が大切だと思う。

